

## 14. アジア未来学校便り (2004年11月)

カンボジア事務所長 安田理裕

### 小学校に通いはじめた子どもたち

10月1日、カンボジアの小学校や中学校では2004年度の始業日を迎えました。アンロンコン・タマイ村の隣村、ブラッカー村にあるルセイサン小学校でもこの日始業日を迎え、学校は久しぶりに元気な子どもたちの姿で賑わっていました。

この小学校は、アンロンコン・タマイ村やブラッカー村の子どもたちが通う小学校で、未来学校での授業を終えた子どもたちもこの学校へ「進学」させることになっています。

未来学校は教育・青年・スポーツ省による識字プログラムをおこなう識字学校で、最低限の読み書きと算数を教えますが、それ以上の教育となるとやはり小学校へ通う必要があります。

日韓アジア基金では未来学校を出発点として、ここで学んだ子どもたちの、この小学校への編入を重視してきました。小学校への編入は、より多くの子どもたちができるだけ長い間教育を受けることを意味しますので、大切な目標と言えると思います。

日韓アジア基金は、この目標の実現に向けて、これまで同小学校への図書設備の寄贈、塀の建設をおこなってきており、現在も「水と大地と緑の会」から支援金をいただき、ドアや窓の補修を進めています。

これらの事業には学校設備の充実、安全性の向上という側面もありますが、同時に楽しい学校づくり、子どもたちが通いたいと思える学校づくりという点も強く考慮して行ってきたものです。例えば、塀の建設では、建設後の塗装作業に子どもたちも参加し、手形を葉っぱに木のペインティングを行いました。

自分たちが参加することで、学校が自分たちのものであるという意識も生まれるのではと考えたからです。

また未来学校でも、特に規定の識字プログラムを終えた子どもたちに、学校へ行くことの大切さを話し、小学校へ通うにあたっての不安な点、分からないことなどを子どもたちと話し合ってきました。こうした結果もあってか、9月末の時点では20名ちょっとの子どもたちが、小学校へ転入したいと話すようになっていました。

### ルセイサン小学校への編入はじまる

そして迎えた10月1日。ルセイサン小学校に行って、校長先生以下職員の方々と子どもたちの登録状況について話し合いました。その結果、事前に考えられていた数を大きく上回る



ルセイサン小学校



始業式を迎えた元気な子どもたち



寄贈された図書設備



手形を葉っぱに見立てた木のペインティング

33名の子どもたちが小学校への編入手続きを終えたことが分かりました。編入者はその後も増え続け、10月22日現在で約50名の子どもたちがルセイサン小学校への編入手続きを済ませています。昨年度の同校の登録児童数が407名ですので、これをもとに考えると約1/8の児童が未来学校出身者となります。

嬉しいニュースですが、手放しで喜んでばかりはいられないのも事実です。カンボジアの小学校では、出席率の低さや退学率の高さが問題になっています。今後は、この子どもたちが継続的に小学校へ通っていけるようにフォローしていく必要があると考えられます。

### 未来学校のいま そして村人とのつながり

小学校始業後の未来学校の状況ですが、現在は4クラス体制となり、朝の2クラスが識字教科書の1冊目(全4部構成)を、午後の2クラスのうち1つが小学校3年生のクメール語と算数、もう1つが識字教科書の3冊目を勉強しています。9月からは、各児童の情報シートを作成し、それぞれの家庭環境などについても細かく把握できるように努めています。情報シートの作成に際して家庭訪問も行いますが、これが父母との繋がりを強め、地域における教育への理解を深める効果をもたらすのではないかと期待しています。



小学校に入学をすすめるポスター

感謝の言葉をいただきました。先月のある日の晩、学校に泥棒が入る事件がありましたが(幸い被害はありませんでした。)それに関しても、こうして日韓市民の協力で学校ができたのだから、村の

9月に、アンロンコン・タマイ村の村長や村の有志に誘われ、村で夕食をご馳走になる機会がありました。私が村を最初に訪れてから丁度2年になりますが、この2年の間に村の状況がよくなった、特に多くの子どもたちが学校へ通えるようになり、それが村の活気に繋がっていると、村長さんや未来学校の生徒のお父さんなど多くの方から



熱心に先生の話聞き勉強する子どもたち

住民として責任を持って管理を積極的に行っていきたいという力強い言葉をいただきました。ルセイサン小学校を訪れると、未来学校の卒業生たちは、私やリティを見つけて笑顔で駆け寄ってきます。早速、新しい学校で熱心に先生の話聞き入り、一生懸命にノートを取っていました。村人の言葉や、こうした子どもたちの姿を見るにつけ、私たちの活動が実を結んでいるのだと強く感じられます。

カンボジアの活動に戻る